

リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢板市立矢板小学校

【取組内容①】タブレットを用いた授業での「学び方」を伝える

【実践の目的】

タブレットを使ってどう学ぶかを児童に伝えながら授業を展開することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」一体的に充実させる授業を目指す。

【実践内容】

- ・図を示しながら「学び方」について指導する。
- ・適宜、学級の実態に合わせて、全体で「学び方」を確認しながら授業を展開する。

【実践を振り返って】

- ・タブレットを使ってどう学ぶかを教師と児童で共通理解することで、児童が自発的に動けるようになる。
- ・児童自身が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で動けるようになるには時間がかかる。教師は、長期的に粘り強く指導していく必要がある。

